

これだけはやっておこう！

### 1 避難計画の確認



避難経路や避難場所などをチェック。災害時は通信ができない場合もあるので、家族で安否確認ができる方法話し合っておきましょう。

### 2 屋内の安全確保



家具の転倒対策を忘れずに。転倒時に出入り口をふさがないように、向きや配置の工夫が必要です。懐中電灯などは見つけやすい所に置きましょう。

### 3 備蓄品や非常時持出品の準備



食料や水の他にも、常備薬やラジオなど避難生活に必要なものを用意しましょう。防災マップで備蓄品や非常時持出品のチェックができます。

### 4 日頃からの情報収集



テレビやラジオ、パソコンやスマートフォンなどさまざまな手段で災害や気象情報を収集する習慣をつけましょう。

町が発信する情報は  
こちらからチェック



町ホームページ  
(災害情報)



お知らせメール



町公式ツイッター

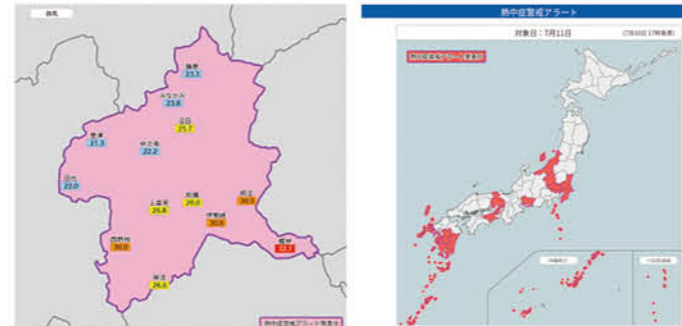
5月～9月間における  
熱中症による救急搬送人員と死者数  
(総務省報道資料)



怖いのは地震や水害だけではありません。相場課長補佐は次のように話します。  
相場課長補佐 この時期は特に熱中症に注意が必要です。熱中症は毎年多くの人が搬送されたり死亡したりするなど、身近でありながら危険なものです。気象庁および環境省では熱中症の危険性が極めて高い日に熱中症警戒アラートを発表しています。アラートが発表された日は屋外での運動は避け、冷房を利用するなどして暑さを避けてください。こまめな水分補給も忘れないようにしましょう。

#### 熱中症への対策も

気象庁ホームページより  
熱中症警戒アラート発表時



これより  
避難訓練を行います

令和5年度

### 邑楽町総合防災訓練

期日▶9月3日(日)

時間▶午前10時(避難指示発令)

内容▶職員参集訓練、情報伝達訓練  
避難訓練、避難所設営訓練など

避難所設営場所  
【中野地区】保健センター  
【長柄地区】町民体育館(武道館)  
【高島地区】高島公民館(体育センター)

町では、災害時の行動を確認し、もしものときに迅速な対応ができるように防災訓練を実施します。訓練では実際の災害時と同様に役場に対策本部を設置し、関係職員参集のもと避難所の設営訓練、屋外広報やお知らせメールの情報伝達訓練などを行います。

#### 総合防災訓練を実施

もしもの時に備えよう！

# 防災対策

私たちの周りには多くの自然災害のリスクがあります。いつ起こるか分からない災害に対し普段から防災意識を高め、備えておくことが大切です。

問合先 役場総務課 47-5018



↑洪水時の被害想定範囲図や避難方法などをまとめた防災マップ。役場総務課で配布の他、町のホームページで確認できます。



役場総務課 交通防災係  
相場 嘉光 課長補佐

私たちが自分のできる防災対策とはどんなことがあるでしょうか。役場総務課の相場課長補佐にお話を聞きました。  
相場課長補佐 災害対策は普段からの備えをしっかりとしておくことが必要です。まず大切なのが自分の住んでいる地域の危険な場所を知ることです。町が配布している防災マップなどを確認し、災害時に自宅付近でどのような被害が想定されるかを把握

#### 自分でできる防災対策

災害による被害をできるだけ少なくするためには、自らが取り組む「自助」、地域や身近の人同士が助け合って取り組む「共助」、国や町などが取り組む「公助」があります。その中で基本となるのは「自助」、一人ひとりが自分の命は自分で守るという意識を持つことが重要です。

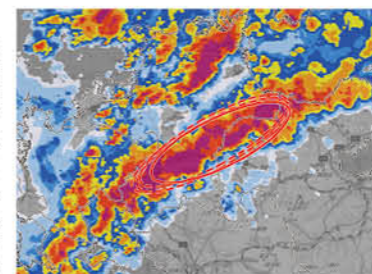
最後に、気象情報などをこまめに確認する習慣をつけておくことも大切です。最近ニュースなどでよく耳にする**線状降水帯**という言葉、これは次々と発生する雨雲が列をなし、ほぼ同じ場所を通過または停滞す



握しておきましょう。それと同時に、付近の避難所の場所や経路を確認することも必要です。次に、家庭内の安全確保も欠かせません。阪神・淡路大震災や新潟県中越地震などでは、多くの人が倒れた家具の下敷きになって大けがをしたり、亡くなったりました。家具は必ず倒れるものと考え、転倒防止対策をしておく必要があります。備えという意味では、食料や水を備蓄しておくことも忘れてはなりません。食料・飲料水は最低でも3日分、できれば1週間分くらいを備蓄しておきたいところです。また、自宅が被災したときは避難生活を送ることになります。いつでもすぐに持ち出せるように持出品の準備をしておきましょう。



線状降水帯の雨域の楕円の側の地域であっても、大雨による災害発生の危険度が高まっている場合があります。詳細は気象庁が発信している災害危険度分布(キキクル)の他、スマートフォンアプリ(ヤフー防災速報)などで確認できます。このようにさまざまな手段で情報収集を行い、いざというときに備えておくことが大切です。



現在の線状降水帯の雨域を赤色の実線で、10分～30分先の予想を破線の楕円で表示【気象庁ホームページ「雨雲の動き」より】

ることで作り出される強い降水帯を言います。この線状降水帯による顕著な大雨によって、毎年各地で甚大な災害が生じています。気象庁のホームページでは大雨災害発生の危険度が急激に高まっている線状降水帯の予想範囲を表示しています。